

特定疾患治療研究事業から見た亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) の発生状況(更新情報)

研究分担者: 国立感染症研究所(感染症疫学センター) 砂川富正

図1: 医療受給者証所持者数とデータ入力数(暫定)

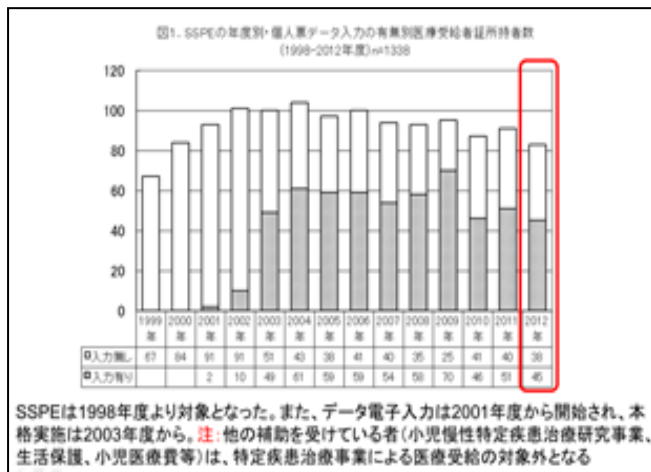


図2 SSPE発病年(2003年度以降にデータ入力のあった者:n=132)

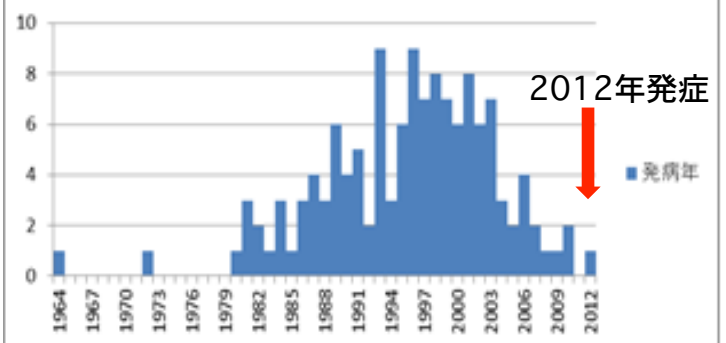


図3: SSPE及び麻疹の発症年齢

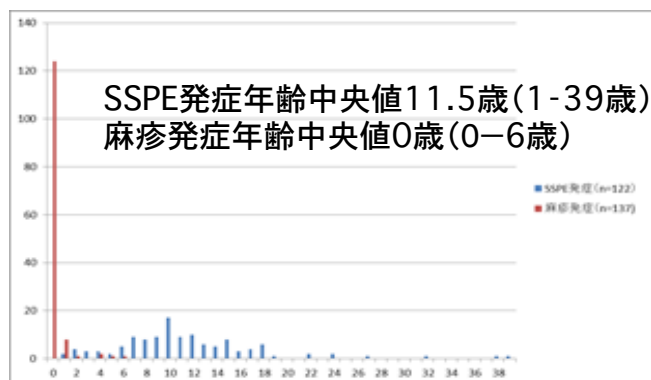
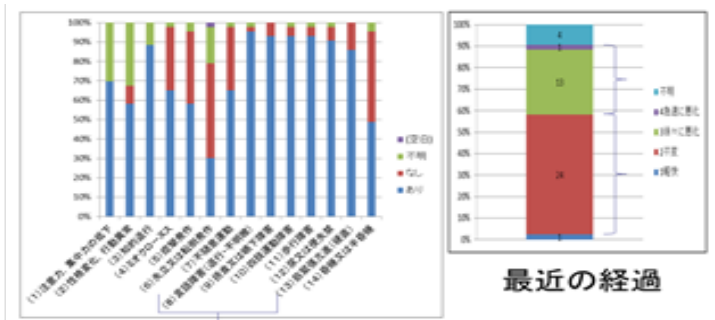


図4: SSPEの症状及び最近の経過(2012年度更新情報)



1. SSPEは1998年から特定疾患治療研究事業による医療費受給の対象疾患となった。2003～2012年度の入力率は約59%に留まった
2. 2012年9月発症者の登録があった(神奈川県1988年生の14歳男性)
3. 症例の多くは要全面介助の状態であり、かつ在宅療養者も少なくない
4. 麻疹罹患で発生する疾患であり麻疹排除により新規SSPEも排除出来る
5. 難治性疾患であり、疫学状況、臨床情報などの把握が診療上も重要
6. 国レベルでのサーベイランス制度の確立が必要